

ナショナルチーム改革。 ガース・ジョーンズヘッドコーチが 世界の風を運んできた

JGAナショナルチームが世界と伍して戦うために新たなスタートを切った。昨年10月、オーストラリアナショナルチームのコーチを務めるガース・ジョーンズ氏をJGAナショナルチームのヘッドコーチとして招へい。直後のノムラカップアジア太平洋アマチュアゴルフチーム選手権で見事26年ぶり9度目となる優勝を飾った。初めての試みとなる海外からのヘッドコーチ招へいは何をもち、ナショナルチームはどう変わろうとしているのか。ジョーンズ氏のインタビューを交えて報告する。



ガース・ジョーンズ氏

Mr. Gerath Jones

1971年英国生まれ。オーストラリアゴルフ協会(GA)ナショナルコーチ。ナショナルチーム(以下NT)サポートの経験を豊富とし、帯同した多くの派遣試合で好成績を収め続ける。その功績が評価されJGANT新体制にヘッドコーチとして招へいに至る。

これまでナショナルチームの強化を担っていたのは基本的にボランティア委員であり、スポーツ科学を基盤とした体系的なサポート体制が成熟していなかった。これに対して強豪国では経験豊富なヘッドコーチを配し、各分野の専門家をスタッフにそろえているのが一般的。世界基準のサポート体制を構築するには各国の強化スタッフとのコネクションを有するヘッドコーチの招へいと、国内の各分野の専門家とのコミュニケーションを密にして選手強化の知識および経験を体系化していくことが不可欠であるとの結論に達した。

注目したのがオーストラリアゴルフ協会(GA)の強化プログラムだった。GAでは成績が低迷したのを機に2010年に専門家中心の新たな強化体制を構築し、2014年の世界アマでは女子優勝、男子は6位と復活した実績があったからだ。

プロのライセンスを持つジョーンズ氏はGAの強化組織改革に当初からコーチとして加わり経験豊富。各国とのパイプもあり、新体制のヘッドコーチとして最適であるとの判断から招へいに至った。

ノムラカップでジョーンズ氏が選手たちに実践させたのは大会への事前準備と徹底したゲームプランの構築だった。大会前にUAEの気候情報を収集し熱中症への対策をレクチャーしたほか、練習ラウンドで「インポジション」と呼ばれる打つべき場所と打ってはいけない場所を明確にさせたほか、「ゼロライン」と呼ぶホールロケーションに対して上りのまっすぐなラインのバッティングが打てる地点などあらゆる情報をヤーデジブックに書き込ませて緻密なゲームプランを練り上げさせ、優勝につなげた。また、合宿中のラウンドでは分析プログラムにすべてのショットのデータを入力。長所や弱点を数値化して選手個々に理解させている。

さらには今年春先のオーストラリア合宿では3Dの動作解析とフィジカルの専門家を呼んで選手のスイングとフィジカルをチェック。1人1人に応じたトレーニングのプログラムを立てていった。

ジョーンズ氏は現在も拠点はオーストラリア。ナショナルチームのメンバーと直接会える時間はそう多くはないが、スポーツ専用のコミュニケーションアプリでやり取りしてアドバイスを送るなど、密にコミュニケーションをとっている。



Queen's Club事前合宿でジョーンズ氏の講義を受ける日本チーム。

ノムラカップでキャプテンとしてチームを率いた堀田勝市JGAナショナル強化委員会委員は「ガースが来て準備段階からすべてが変わったと感じました。やっと日本も(世界レベルの)土俵に上がったということだと思います」と話す。

かつて日本の男子は世界アマで上位の常連だった。1974、76、82年と3度の2位のあと、84年にはついに世界の頂点に立っている。女子も世界アマで5位以内を8度記録している。だが、ともに近年は低迷。日本開催だった2014年には女子は8位、男子は29位に終わった。再び世界と対等に戦うために選択した“ジョーンズ体制”。まだ始まったばかりだが、大いに期待できそうだ。

— 生まれ育ちはオーストラリアですか。

ジョーンズ 生まれたのは英国です。2歳で一度オーストラリアに来て、9歳で再び英国に戻りました。ゴルフを覚えたのは英国です。16歳でまたオーストラリアに帰りました。

— プロの資格を持っていますが、ツアーのライセンスですか、それともティーチングのライセンスですか。

ジョーンズ 両方です。1993年からプロになるための準備を始めて、1995年にプロになりました。1997、98年の2年間はツアープレーヤーとして活動しましたが、成功できませんでした。

— ティーチングの分野を専門にしたきっかけは何かありますか。

ジョーンズ もともと教えることが好きでした。それに、ツアーで成功しませんでしたから生活していくためにティーチングの道に入ったという理由もあります。



オーストラリア合宿風景。



SAクラシック出場の金澤(左)を指導するジョーンズ氏。金澤を優勝に導いた。



ノムラカップで26年ぶりの優勝を飾った日本チーム。



ノムラカップ練習ラウンド。ジョーンズ氏(左)、金谷(右)。

— GAで仕事を始めたのはいつごろですか。

ジョーンズ 2000年から2004年までにAIS(オーストラリア国立スポーツ研究所)というところで働いていました。AISはエリートのアスリートを育成する機関です。その後、ビクトリア州の女子コーチを経て、2008年にサウスオーストラリア州のコーチに赴任しました。2010年にGAが新しい強化プログラムをスタートさせ、それが今につながっているのです。

— 日本の国や選手にどのような印象を持っていましたか。私たちに日本の選手は海外選手に比べるとシャイに感じますが。

ジョーンズ 日本のみなさんはフレンドリーですし、すごく礼儀正しい。オーストラリアと正反対です(笑)。選手たちも敬意を示してくれるのでとてもいい印象です。私が接している選手たちしかわかりませんが、確かに私も日本には内気な選手が多いと感じます。でも、オーストラリアにもそういうタイプの選手はいますよ。ゴルフは個人競技ですから、自分の意見を主張して他の意見とすり合わせていくことが必要なチームスポーツも経験してほしいと思います。コミュニケーションをとりながら切磋琢磨していくチームメイトがいることで、自分の殻を破り、成長することが出来ますから。

— では、日本選手特有の長所はありますか。

ジョーンズ 物事に積極的に取り組む姿勢が印象的です。私が提供する情報をすぐに受け入れて実行してくれる選手が多いですね。その姿勢が、私の期待以上のスピードで選手を成長させていますし、さらに高いレベルのカリキュラムを彼らに提供することに繋がっています。

— 具体的にはどのような情報を提供してコーチングしているのですか。

ジョーンズ 今やっているプロジェクトとしては正しい練習の方法をしっかりと教えることです。たとえば、海外の選手は練習の65%がショートゲームです。一方、日本の選手は、ドライバー等のロングショットの練習がその割合の多くを占めています。スコアメイクに必要なアプローチに練習の多くを割いて、かつ、質の高いものにする事の大切さを話しています。また、ただボールを打つだけでなく、自分の結果を数値として表せるような練習方法を教えています。

— それが日本が世界で活躍するために必要な部分になるわけですね。

ジョーンズ その通りです。練習と統計をリンクさせ、数値化していくことが大事です。数値を明確にすることが本当の自信につながっていくのです。

— 昨年のノムラカップで日本のナショナルチームのヘッドコーチとして実際に現場に行きましたが、そこで選手たちにどのようなことを伝え、どのようにモチベーションを上げていったのでしょうか。

ジョーンズ 選手たちがすでに「勝ちたい」というモチベーションを持っていましたから、気持ちの面では特に何かをやるうとは意識していませんでした。私が選手たちと取り組んだのは開催コースに対してほかのチームよりもしっかり準備をすることでした。どのような練習ラウンドをしてどのように戦っていくかということを伝え、選手たちは猛暑の中、練習ラウンドでヤーデーブックにコースの情報をしっかりと書き込んでくれました。しっかりとした準備ができたことが試合の4日間、集中力を切らさず、

モチベーションを保てることにつながったのだと思います。

— 練習の質の向上と、試合に向けての準備が大切なのですね。では、具体的に練習ラウンドで注意させているポイントを教えてください。

ジョーンズ トーナメント開催コースでどう戦っていくかというゲームプランを作ることが一番大切なことです。もしうまくプレーできなかった場合には、ほかにどのような選択肢があるのかということも考えてもらいます。日本選手は海外の芝からのショートゲームへの対応に苦労しています。若い選手は、芝によって打ち方も変わることを知り、その対応力を上げるためにどう調整していくかも準備の大切な要素の一つです。

— しっかりと準備ができてゴルフはうまくいかないこともあります。そんな時に選手にはどのようなことを伝えますか。

ジョーンズ 目先のことも大切ですが、長期的なプランがもっと大切です。うまくいかない日があっても長期的に考えれば今日は何を達成すればいいのか、どう未来につなげていけばいいのかということ選手に考えさせます。

— 日本ゴルフ界ではヘッドコーチという考え方が浸透しているとは言えません。ヘッドコーチの役割をどのようにとらえていますか。

ジョーンズ 選手たちがアスリートとして成長していくための考え方をしっかりと教えていければいいと思っています。また、このようなアイデアを各地区に広め、若い選手がナショナルチームに上がってきた時にスムーズに入っていけるプログラムを構築していきたい。PGAやLPGA、各地区のスタッフにも協力してもらっ

て、このようなメッセージを日本中に広げていければいいと思います。

— 9月にメキシコで世界アマが開催されます。日本チームの目標と、そこに向けて必要なことを教えてください。

ジョーンズ まず開催コースに対しての準備をしっかりとするという事です。世界基準の準備をしていけば結果はついてくると思います。世界アマはノムラカップやクイーンシリキットカップよりも層が厚いのは確かですが、ナショナルチームのメンバーはしっかりと準備ができれば世界のトップクラスに入れる実力はあると思います。優勝となると運やさまざまな条件が重なることが必要ですが、いい準備ができれば最終日にチャンスをつくることは可能だと思います。

— 最後に、日本の若いプレーヤーや指導者に伝えたいことがあればお聞かせください。

ジョーンズ まずプレーヤーに対してはテクニックでもフィジカルでもメンタルでも私生活でも何でもいいので日々、少しでも向上することを目指してほしい。日本の外を見て、いろんな可能性があって、いろんなことを伸ばせるのだということに気づいてほしいと思います。指導者にはテクニカルな部分だけではゴルフは絶対に成功しないということを伝えたいです。スイングは重要ですが、最も大切なのは人間としてバランスのとれた選手に育てていくことです。そうすることが国際的なプレーヤーの育成へとつながっていくはずですよ。

— ありがとうございました。